

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成26年6月24日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻井昭雄様

所属部局・研究科 医学研究科人間健康科学系専攻

職名・学年 修士課程2年

氏名 森野佐芳梨

助成の種類	平成26年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成若手		
研究集会名	第24回 ヨーロッパ周産期医学会議 (24th XXIV European Congress of Perinatal Medicine)		
発表題目	Association between pregnancy related discomforts and prepregnancy BMI		
開催場所	イタリア・フィレンツェ Palazzo dei Congressi, Piazza Adua 1		
渡航期間	平成26年 6月 2日 ~ 平成26年 6月 9日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	学会参加費	34,680円
		往復航空券	139,450円
学会期間滞在費の一部		75,870円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 本学会参加、発表に掛かる費用について財団からの助成を受けることができ、大きなサポートを頂いたことに大変感謝しております。申請から採択まで、非常にスムーズに手続きを進めることができ、また使用に関しても非常に自由な形で設定していただいているため、大変ありがたく感じました。今後もぜひ本財団に応募させて頂きたいと考えております。今後とも、本事業の継続をお願い申し上げます。		

<成果の概要／森野佐芳梨>

この度、京都大学教育研究振興財団の助成を受けて、2014年6月4日から7日にかけて、イタリア・フィレンツェで開催された第24回ヨーロッパ周産期医学会議に参加したため、その成果をここに報告する。

<研究集会の概要>

研究集会名：第24回 ヨーロッパ周産期医学会議

(24th XXIV European Congress of Perinatal Medicine)

主催者：ヨーロッパ周産期医療協会

(The European Association of Perinatal Medicine)

開催場所：イタリア・フィレンツェ Palazzo dei Congressi, Piazza Adua 1

ヨーロッパ周産期医学会議は、ヨーロッパ諸国を中心に周産期医療分野における学術的なキャリアを有する世界中の研究者および医療従事者が出席し、周産期に関わる女性および胎児の健康増進を主題として、臨床現場での実情から、今後の臨床応用につながる研究成果まで、幅広い分野における最新の知見を相互に提供し合う場として隔年の頻度で開催されている。本年度の会議は4日間にわたって行われ、世界93ヶ国の約2000名が出席し、上述した分野に関するシンポジウムや口述発表、ポスター発表が行われた。また、会議初日には数種類の **Perinatal Training Course** が設けられていた。これは、例えば、妊娠性糖尿病を有する妊婦への対処法や分娩時における胎児のモニタリング法の講義等で構成されており、臨床および研究の場で周産期医療に関わる医療従事者や研究者の技術向上を目指す取り組みがなされていた。

報告者にとって今回が初めての国際会議の参加であったが、様々なセッションの発表を聴き、世界各国で行われている最先端の研究内容に触れ、今後の研究において大きな刺激となり、大変有意義なものであった。

次回大会は2016年6月22日～26日に、オランダのマーストリヒトにて開催されることが決定している。

<発表内容の概要>

報告者は、学会3、4日目のセッションにおいて、「**Association between pregnancy related discomforts and prepregnancy BMI (妊娠期のマイナートラブル発症と妊娠前BMIとの関連について)**」という題目でポスター発表を行なった。

発表内容は、妊娠中に女性の心身に起こる不快症状と妊娠前の母体の **BMI** との関連性を検討し、妊娠前から適正な **BMI** を保つことで、妊娠中のトラブルを回避できる可能性が示

されたというものである。

妊娠により、女性の身体には様々な解剖学および生理学的変化が生じ、腰痛に代表される多様な不快症状が発生する。この症状はマイナートラブルと呼ばれ、これにより妊婦の QOL が損なわれ、妊娠経過に悪影響を与えることから、対処を行う必要がある。また妊娠前には、ホルモンバランスを整え、順調な妊娠経過を送るために、適正な **body mass index (BMI)** を維持することが重要である。しかし、妊娠前 BMI とマイナートラブルの関連についての十分な検討はなされていない。そこで本研究では、妊婦 355 名(31.1±4.1 歳)を対象とし、妊娠中の女性に発生するマイナートラブルと妊娠前 BMI との関連を縦断的に検討した。調査項目は 2009 年から実施されたメディカルチェックシート、および電子カルテから得られる身体情報(年齢、身長、妊娠前体重)である。メディカルチェックシートは、睡眠、便秘、手指のこわばり、むくみ、足のつり、腰背痛、足のつけ根の痛み、肩こり・頭痛、肋骨下の痛み、食欲・むねやけの 10 項目について、妊婦が即時的に症状のある項目をチェックする自己記入式質問紙である。これをもとに、マイナートラブル有病率を算出し、記述統計的に検討を行った。また、妊娠前の BMI 値から BMI 低値群(BMI:18kg/m²未満)、BMI 標準群(BMI:18~22 kg/m²)、BMI 高値群(BMI:22kg/m²以上)の 3 群に群分けを行い、妊娠中期、妊娠後期のマイナートラブルの発症との関連を検討した。統計解析は、それぞれの時期において、従属変数を各マイナートラブルの有無、独立変数に BMI 標準群をリファレンスとして低値群および高値群を投入し、年齢で調整した二項ロジスティック回帰分析(強制投入法)を行った。有意水準は 5%未満とした。

この結果、マイナートラブルの中には、妊娠経過とともに有病率が増加するだけでなく、減少傾向を示す項目もあることが明らかとなった。また、BMI 各群の人数は低値群 37 人(30.4±4.2 歳、BMI:17.4±0.6kg/m²)、標準群 246 人(31.2±4.0 歳、BMI:19.8±1.0 kg/m²)、高値群 72 人(31.2±4.2 歳、BMI:23.5±1.8 kg/m²)であり、妊娠前 BMI が高い群および低い群において、BMI 標準群と比較して多様なマイナートラブルの発症率が高くなることが明らかとなった。

マイナートラブルに関しては、妊娠中という治療法に限られる状況を考えると、妊娠前からの予防が重要である。本研究により、各種トラブルに対する予防・対処として、妊娠前から適切な BMI を保つことが重要であることが示された。

2 日間にわたるポスター発表を通して、同分野の先行研究者や他の研究者との情報交換を行なうことができ、今後の研究デザインについて再考することができ、非常に有意義な発表であった。

<謝辞>

最後になりましたが、今回の国際研究集会の参加を助成して頂き、発表の機会を与えて下さった京都大学教育研究振興財団に心より厚く御礼申し上げます。京都大学教育研究振興財団の益々の御繁栄を心より御祈り申し上げます。